

頂きを夢見て

難ちゃん

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したもので  
す。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を  
超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

夏休みも終わりに近づいたある日

たまたまネットで生中継されていた棋戦を見た籠宮 馬人は対局の熱さに夢中に  
なった。

そして彼が将棋を始めるきっかけにもなった。

そして、馬人の運命は動き出す

第  
1  
話

目

次



# 第1話

今日で夏休みが終わり中学校は新学期  
部活所属していない俺はある決意をした  
それは『将棋部に入部する事』

進学式が終わりまた退屈な授業が始まる。

新学期が始まつたばかりだからか、授業は4時限。

放課後

ついに将棋部の前に来た。

どんな人がいるんだろう！どんな体験が待つてているのだろうと胸をわくわくさせながら戸に手をかける

「あれ？」

どうやら

今日は部活動は行つていないらしい。

お家に帰ろ

5日後

今日から活動が始まるらしい。退屈な授業も今日から本格的に始まる放課後になり改めて俺は将棋部のとに手を掛けた

「失礼します。入部希望です！」

部室には眼鏡をかけた長身の3年生と髪を両方に結んだ要するにツインテールのスタイルのいい女子生徒（同級生）がいた。

二人とも俺を見ながら驚いてる。

その後約3秒間程間に空いて眼鏡の2年生が声をかけてきた。

「入部希望だね。わかりました。この用紙に名前と希望部活を書き込んで明日までに持ってきて」

またまた、時間が空いて1日後

再び将棋部前に来た

昨日と同じ通り戸に手を掛け、戸を開く

部室に入ると昨日の同じ3年生と同級生が立っていた

「入部希望です！・言われた通り持つてきました」

今回は間は開かず昨日と同じ3年生が

「待つてたよ」

と言つてくれた

「ようこそ将棋部へ」

眼鏡の三年生が

「改めて僕は将棋部部長、風間 韶（かざま ひびき）『よろしく』

すると昨日もう一人いた同級生の女子生徒が

「初めまして私は、風間 色音（かざま いろね）『風間 韶の妹です』

「俺の名前は、籠宮 馬人（かごみや まと）』です。将棋を始めて1… 2… 3… 5週間です。まだ至らぬ点が多くありますが、優しく教えていただけると嬉しいです』

「よしつ早速一局さそう！」

その言葉と同時にパチンつと駒音と同時に対局が始まった

「負けました」

俺は悔しさという感情を振り切つて声を絞りだした。

ネット対局とは違う確かに負けるのは悔しいけど、相手の顔が見えないぶん、感情は

薄れる。

が、

対人戦だと相手の顔がみえ、自分の弱さを痛感してしまう。  
少しは才能があるんじや無いかなと自惚れていた自分がにくくなる  
その後、響先輩と4局指したが全敗した。

空を見ると朝は空色だつた空は朱色に変わつていた。

俺は家に帰ると負けた悔しさから将棋の基本を一から自分に叩き込み、プロ棋士の棋  
譜を並べ、夜10時には寝た。  
朝起きると昨日の負けた悔しさは消えまた指したいとやる気が戻つていた。